

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 1 区分

【発行日】平成 17 年 9 月 22 日 (2005.9.22)

【公開番号】特開 2003-24788 (P2003-24788A)

【公開日】平成 15 年 1 月 28 日 (2003.1.28)

【出願番号】特願 2002-123814 (P2002-123814)

【国際特許分類第 7 版】

B 0 1 J 27/057

C 0 1 B 19/00

C 0 7 C 51/215

C 0 7 C 57/05

C 0 7 C 253/24

C 0 7 C 255/08

// C 0 7 B 61/00

【F I】

B 0 1 J 27/057 Z

C 0 1 B 19/00 F

C 0 7 C 51/215

C 0 7 C 57/05

C 0 7 C 253/24

C 0 7 C 255/08

C 0 7 B 61/00 3 0 0

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 4 月 13 日 (2005.4.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 6】

本発明の改良された触媒の製造方法のための出発物質として使用される混合金属酸化物は、



〔式中、A は Mo 及び W からなる群から選択される少なくとも 1 つの元素であり、N は Te、および Se からなる群から選択される少なくとも 1 つの元素であり、さらに X は Nb、Ta、Ti、Al、Zr、Cr、Mn、Fe、Ru、Co、Rh、Ni、Pt、Sb、Bi、B、In、Ce、As、Ge、Sn、Li、Na、K、Rb、Cs、Fr、Be、Mg、Ca、Sr、Ba、Ra、Hf、Pb、P、Pm、Eu、Gd、Dy、Ho、Er、Tm、Yb、Lu、Au、Ag、Re、Pr、Zn、Ga、Pd、Ir、Nd、Y、Sm、Tb、Br、Cu、Sc、Cl、F および I からなる群から選択される少なくとも 1 つの元素であり、 $a = 1$  のとき、 $b = 0.01$  から 2、 $c = 0.01$  から 1、 $d = 0.01$  から 1.0 であり、e は他の元素の酸化状態に応じて変化する。〕

の実験式を有する。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

## 【 0 0 7 0 】

## 実施例 1

比較例 1 の触媒 5 . 7 2 g を、2 5 g の水中の 2 . 3 5 g の蔭酸 2 水和物に加えた。混合物を攪拌しながら 7 5 で 6 時間加熱した。その後混合物を室温に冷却し、ろ過して不溶解物を集めた。固体を真空下で 1 6 時間、室温で乾燥した。X 線回折分析により、比較例 1 と実施例 1 では相組成の相違のないことが示された。

## 【 手続補正 3 】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

## 【 0 0 7 2 】

## 実施例 2

比較例 2 の触媒 1 4 . 0 8 g を、6 0 g の水中の 5 . 7 7 g の蔭酸 2 水和物の溶液に加えた。混合物を攪拌しながら 7 5 で 6 時間加熱した。その後混合物を 4 0 に冷却し、ろ過して不溶解物を集めた。固体を真空下で 1 6 時間、室温で乾燥した。

## 【 手続補正 4 】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

## 【 0 0 7 3 】

## 比較例 3

触媒は比較例 2 の手順より調製された。ただし、比較例 1 の物質 A 0 . 3 0 g を蔭酸二オブ溶液とともに加えた。

## 実施例 3

比較例 3 の触媒 1 5 . 4 6 g を、6 5 g の水中の 6 . 1 9 g の蔭酸 2 水和物の溶液に加えた。混合物を攪拌しながら 7 5 で 6 時間加熱した。その後混合物を 5 0 に冷却し、ろ過して不溶解物を集めた。固体を真空下で 1 6 時間、室温で乾燥した。